

諏訪小ふれんず 「英語であそぼう！」 ～伝統行事へ～

2013年12月22日地域プロジェクト発表祭

石川晴子ゼミ

21011131 釘宮慎也

21011201 正路裕平

発表内容

- 1 諏訪小ふれんずとは・・・
- 2 「英語であそぼう！」の活動目的
- 3 「英語であそぼう！」の活動内容
- 4 「英語であそぼう！」の活動を通して私たちが得たもの
- 5 今年度行ったこと
- 6 今年度発見したポイント
- 7 今後の改善へ向けて
- 8 「英語であそぼう！」を継続させるために
- 9 今後の挑戦

諏訪小ふれんずとは・・・

- 放課後の児童の安全な居場所を提供する場として、東京都多摩市がサポートする、多摩市立諏訪小学校の放課後教室の名称
- 主催者＝多摩大学プロジェクトゼミ担当片桐徹也先生。地域住民、大学生（現在は多摩、法政、国士舘大学）が連携し、協同で運営する。月1回、各団体の代表者による定例会がある。
- 対象児童は3年生～6年生。開催日は週3回（火・金・土）＊「英語であそぼう！」は金曜日に開催。開催時間は午後3時10分～4時20分（計1時間10分）

「英語であそぼう！」の活動目的

- 子供たちに「勉強の場」、「遊びの場」を提供する。
- 子供たちに英語に親しんでもらう。
- 地域が行う、子供たちの「居場所づくり」に協力する。
（大学生による地域貢献）

「英語であそぼう！」の活動内容

- 大学生が企画する、ゲームや遊びを中心とした英語授業（例）ボールを使った自己紹介、フルーツバスケット
- 石川ゼミ2年～4年生の約16名がメンバーとして参加
- 2～5名ほどのグループで1回の授業を担当
- 各グループで英語を使ったゲームや遊びを考え、教材を用意
- 進行役、ゲームの説明役、手本役などの役割分担

「英語であそぼう！」の活動を通して 私たちが得たもの

- 授業づくりを通して、チームワークを学んだ。
- 子供たちと接するコツを学んだ（＝コミュニケーション力の向上に役立った）。
- 地域への貢献
- 「諏訪小学校の『英語であそぼう！』のことを聞いて、小学校に入った」という言葉を聞いて。。。

今年度行ったこと

- 今年度の「英語であそぼう！」の実施回数は計12回
- さまざまなイベントへ参加(梅澤ゼミ主催の「多摩大学永山学園祭」、ふれんずとおやじの会共催の「流しそうめん&スイカ割り」、「国際コミュニケーションデー」)
- 「英語であそぼう！」の活動を紹介するショートムービーを制作(学内、学外へ向けての2種類)
- ふれんずの授業活動
- 毎月の定例会へ出席
- ふれんずに参加する大学生のためのガイドラインを作成

今年度発見したポイント

- 「英語であそぼう！」の授業よりも、そのあとの自由遊び時間が目的で参加する児童が多い。
- やわらかい授業のほうが、子供たちは寄ってくる。
- ゲームや遊びは、オリジナルよりも、すでに存在しているゲームをベースに考えた方が子供たちの反応が良い。
- 子供たちは英語を話すことを恥ずかしがるが、嫌がっているわけではない。
- 大学生がイベントに参加するたび「ふれんず」の、参加児童数が増える。

今後の改善へ向けて

- もともとあるゲームをうまく利用して、子供たちの興味をひきつけ、積極的に参加してもらえるようにする。
- 自由時間で子供たちと打ち解け、楽しませることで、「英語であそぼう！」への興味も持ってもらえるようにする。
- 子供たちと一緒に英語を話す。
- 積極的にイベントに参加し、子供たちと絆を深めよう。

「英語であそぼう！」を継続させるために

- 引き続き、いろいろなイベントに参加する。
- プロジェクトリーダー、副リーダーを後輩に継いでもらう。
- 参加メンバーによる全体ミーティングを開く。

今後の挑戦

- 他大生との交流
同世代の意見の取り入れ、刺激しえる仲へと発展させる。
- ふれんずや「英語であそぼう！」をより多くの人に知ってもらう。
例) 子供たちを大学に呼ぶ。
私たちが制作したムービーを多くの人に見てもらう。

ご清聴 ありがとうございます